

## 細胞の伸び縮みを支える

エラスチン含有量は、靭帯で約78～80%、動脈で約50%、肺で約20%、皮膚の真皮で約5%を占め、心臓、膀胱、胃腸、子宮、腱、弾性軟骨などの弾力性を維持しているのがエラスチンです。その弾力性が失われると、お肌ではタルミ、肺では肺気腫、心臓では心肥大、血管では動脈硬化やくも膜下出血、胃では胃下垂、腎臓では遊走腎、子宮では子宮脱などの問題が発症してきます。

体は60兆個の細胞が一定の間隔で石畳のように引き詰められています。石畳がアスファルトより丈夫なのは引き埋めている“つなぎ”によりです。つまり細胞を丈夫に保つには、細胞間の物質の役割が重要なのです。その細胞間物質が「結合組織」と呼ばれています。新しい細胞の再生（若さを保つ）には、結合組織を丈夫にする事が大切です。

その結合組織は、コラーゲン・エラスチン・コンドロイチン硫酸などからできています。

### ◇ 骨・軟骨・皮膚の成分 ◇

(水分を除く) %	骨	軟骨	皮膚
ミネラル(カルシウムなど)	74	6	3.5
コラーゲン	26	58	87.5
エラスチン	—	+	2
コンドロイチン硫酸など	0.2	36	7

上記の成分表から分かるように・・・

- ◎皮膚の再生にはコラーゲン+コンドロイチン+ミネラル+エラスチンが必要。
  - ◎骨粗鬆症にはカルシウムに、ミネラルとコラーゲン+コンドロイチンが必要。
  - ◎腰痛や関節痛では“軟骨”がすり減って発症しますが、ミネラル+コラーゲン+エラスチン+コンドロイチンが必要。
- 上記の栄養成分は動物の骨・軟骨・皮に含まれるので、豚骨料理・フカヒレ・豚皮などを毎日、食べると良いと云われています。

秦の始皇帝が探した不老不死の材料は、もしかして、コラーゲン・エラスチン・コンドロイチンだったのかも…?!

### ◇ お召し上がり方 ◇

「コラーゲンペプチド」と一緒にお摂りください。

こんな方にお勧めします

- \*シワ、たるみが気になる年齢の方
- \*骨・軟骨・血管が弱い方

# エラスチンペプチド

- 内容量：3g (100mg × 30回 = 1月分)
- 形状：粉末
- 価格：2800円 + 消費税

“コラーゲンペプチド”と一緒に摂りください。

栄養成分表：100mg 中  
エラスチンペプチド……………100mg

“エラスチンペプチド”は、豚の動脈からエラスチンを高純度に抽出しペプチド化したので、分子量が小さく吸収性に優れ、食後12時間以内に95%が吸収されます。ブタのエラスチンは、アミノ酸組成がヒトのエラスチンと類似し、魚由来より高い機能性が期待できます。

## エラスチンとは

### お肌の張りや弾力性に

“エラスチン”は銅を必要とするタンパク質で、組織や臓器に弾力性を与えゴムバンドのような働きをします。

エラスチンは、皮膚の真皮・靭帯・腱・血管・肺・子宮・腎臓・弾性軟骨・眼の毛様体など伸縮性の必要な器官に広く分布しています。



「エラスチン」は主に「コラーゲン」同士を結び付ける働きを持つタンパク質で、コラーゲンが豊富にある状態で活発に活動します。コラーゲンは強度を提供し、エラスチンは組織の伸び縮みを可能にします。

エラスチンは20歳代後半をピークに減少するので、若々しい肌を保つための重要な栄養です。

